

『次世代クラウドサービス検討WG』 活動計画書

ASPIC

1. WGの概要

目標

現在振興しつつある多様なクラウドサービスの分類・用語の定義等の整理をしつつ、我が国ならではの新たなグローバル社会基盤を実現すべく、将来的なクラウドサービスのあり方・方向性等について多くの意見を求め、日本のICT業界が取り組むべき次世代クラウドサービスの将来ビジョンを描く。

課題認識

高度化された社会インフラを実現するスマートクラウド基盤をベースにした日本ならではの次世代クラウドサービスとは何か、そのサービスモデルとしての構造、実現するために必要な技術・法制度と検討事項・課題が広範多岐に亙るため、全体動向を見据えた上で優先分野を決めて検討する。

具体的検討項目

STEP1: 情報収集

海外及び国内の先進的動向、クラウドサービスの提供／利活用事例に関する情報収集、台頭しつつあるクラウド技術に関する調査・分析を行い、クラウドサービス体系の現状に係る共通認識を得る。

STEP2: 課題検討

我が国のICT業界の特性を活かしたグローバル潮流を生み出すべく、次世代クラウドサービスのあり方、実現に向けた取り組み戦略等に関する幅広い意見収集・整理、将来ビジョンに係る要件整理・具体化検討を行う。

STEP3: 具体化

STEP1,2の検討を踏まえ、実行に移すべきアイデアが生じれば、実際に実行に移す。

導入効果（目標）

日本が国際的に競争力を持てる、社会インフラサービスと実現に必要な技術や法制度が開発・提言される

2. WGの詳細

関連要素技術、サービス、システム

要素技術: ①大量コンピュータ資源を利用した大規模並列処理等のクラウド技術②安全・信頼性向上技術③環境負荷軽減技術
サービス: 医療、教育、交通、防犯・防災、環境などの社会インフラ系のサービス

グローバル化関連

次世代のクラウドサービスや技術が、アジア等新興国で急増する社会インフラ需要に対する日本としての競争力の源泉となる

実施体制、役割分担

幹事

- 特定非営利活動法人ASP・SaaS・クラウドコンソーシアム(ASPIC)

事務局

- ASPIC小田島理事、畑執行役員、堤田執行役員

メンバー*

* 左記のいずれかを満たす
JCC会員または有識者

- 国内外の先端的クラウドの動向、推進施策などに明るく、情報提供が可能であること
- 上述の動向、施策への強い興味と、我が国の政策に反映させたいとの意欲があること
- WG活動における積極的な発言、書記作業、報告書作成作業などに貢献できること

対政府要望①：予算、税制支援等

- 次世代クラウドサービスや技術を使った社会インフラ輸出に対する予算的支援

対政府対応②：制度、規制緩和等

- ICTオリエンテッドな社会インフラ輸出に向けた官民合同チームの組成
- 機微情報の流通する社会インフラの実現に向けて障害となる規制の緩和

3. ゴールイメージ

全体像

内容的には

- 前段においては、主に(1)の成果を使って、次世代クラウドとされる主要なトレンドや台頭しつつある技術について国内外で収集された事例を紹介、解説する
- 中段は主に(2)で、これらの中から日本が特に強みを持ち、注力していくべき分野を選定し、それについて、現在の取組み状況を分析し、クラウド普及に向けた課題を抽出する
 - －例えば、社会インフラ高度化のためのスマートクラウド基盤技術の動向や、適用案件への対応状況を調べる
 - －案件への対応における技術的課題、法規制上の課題を抽出すると共に、クラウドベンダーが現状、案件に十分入れていない場合、その原因なども探っていく
- 後段の(3)では、上記の課題や原因などを分析し、解決策を導き出すと共に、実現に向けて政府が取るべき支援策を提言する

提出に当っては

- 5月または6月に中間とりまとめを提出する。政策支援等を求められる最低限のレベルを確保する程度の粗いものを想定(分量は数ページ～10ページ程度)
- 11月または12月に提出する第1事業年度の最終的取りまとめ報告書は、前・中・後段とされた内容の全てを網羅した報告書として提出(分量的には本編30ページ程度)

4. スケジュール

全体像

